

共通教育

英語カリキュラムおよび飛び級の

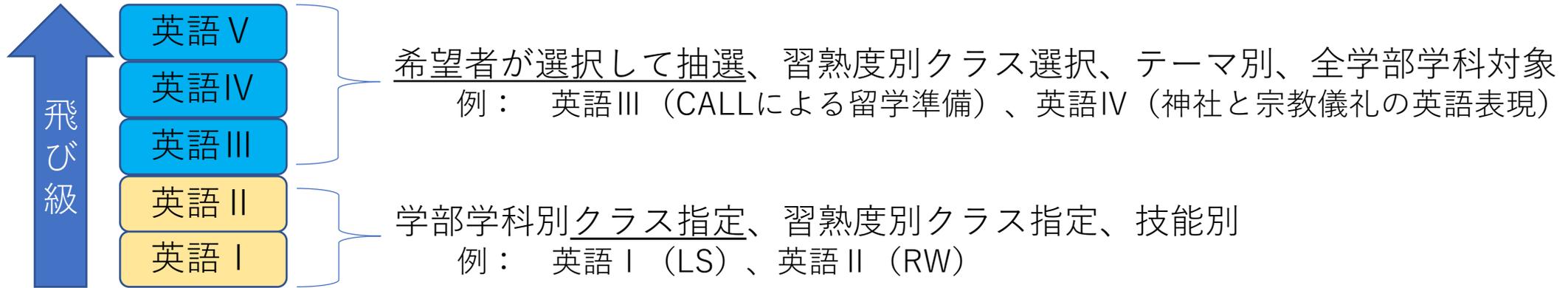
概要説明とよくある質問

國學院大學 英語教育センター

問い合わせ先 メールアドレス

CELE@kokugakuin.ac.jp

共通教育英語科目「英語Ⅰ」～「英語Ⅴ」の概念図（令和3年度以降入学者対象）



ただし、観光まちづくり学部専用の「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」は習熟度別、学部学科別クラス指定。

学部学科によって卒業要件単位数が異なるので、履修要綱で確認し、計画的に履修すること。

詳細については、履修要綱やK-SMAPYIIで受け取る各種注意事項等を読み、不明な点は英語教育センターにメールで質問してください。

英語Ⅰ

英語Ⅱ

のクラス指定時期と注意事項

学部学科	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
中国文学科	英語Ⅰ (LS)			
外国語文化学科	英語Ⅰ (LS)	英語Ⅱ (RW)		
人間開発学部	英語Ⅰ (LS)	英語Ⅰ (RW)	英語Ⅱ (LS)	英語Ⅱ (RW)
観光まちづくり学部	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ
上記以外 (週2科目)	英語Ⅰ (LS)	英語Ⅱ (LS)		
	英語Ⅰ (RW)	英語Ⅱ (RW)		

学部学科別に習熟度に応じてクラス指定される（履修者が自由に選ぶことはできない）。

上記のうち、**青枠**で示した授業は、学期前に申請することにより履修せず、代わりに「飛び級」用の「英語Ⅲ」以上を履修可能。「飛び級」の申請時期についてはK-SMAPYIIで各学生に連絡。

クラス指定科目を週1回のみ履修し、追加して飛び級用「英語Ⅲ」以上を履修することも可能。

観光まちづくり学部は「英語Ⅰ～Ⅳ」が必修。さらに2年次以降であれば、全学部学科対象の括弧つき「英語Ⅲ」以上を追加で履修可能。

全学部学科共通 **英語Ⅲ** **英語Ⅳ** **英語Ⅴ** の履修基準と注意事項

科目名	TOEIC L&R	TOEFL ITP	英検	過去の 履修単位	履修意欲
英語Ⅲ（括弧内に副題）	340以上	422以上	準2級 以上	英語Ⅰ、Ⅱを 4単位以上(*1)	英語Ⅲ履修 意欲あり
英語Ⅳ（括弧内に副題）	470以上	452以上	2級 以上	英語Ⅲを 2単位以上	英語Ⅳ履修 意欲あり
英語Ⅴ（括弧内に副題）	550以上	470以上	準1級 以上	英語Ⅳを 2単位以上	英語Ⅴ履修 意欲あり
いずれかの基準を満たす必要あり					

(*1) 中国文学科・外国語文化学科・人間開発学部は「2単位以上」。

上記「英語Ⅲ」以上は学部学科の指定がなく、履修者がどの時間帯でも自由に選択できるが、希望者が定員を超える場合は抽選となる。

観光まちづくり学部専用の「英語Ⅰ～Ⅳ」は上記と異なり必修科目であり、履修基準はなく、履修申請の必要もない。さらに上記の全学部学科対象の「英語Ⅲ」以上を追加で履修可能。

Q & A

CELE@kokugakuin.ac.jp

Q 複雑な履修制度や「飛び級」の目的は？

A 英語学修の目的、英語力、興味が異なる多様な学生に対応するためですが、飛び級を希望しない人や飛び級の仕組みを理解した人にとっては、それほど複雑な制度ではありません。

Q 卒業までに全部で何科目履修すればよいのですか？

A 学部学科によって卒業要件単位数が異なります。履修要綱でよく確認し、早めに必要単位を取り終えるようにしてください。なお、共通教育英語科目はすべて1科目あたり2単位です。

Q 飛び級の対象者は？

A 観光まちづくり学部以外の1年次学生で、英語Ⅲ以上の履修基準を満たす希望者のみ。

Q 飛び級を希望する人は、どんな申請をすればよいのですか？

A 英語以外の科目とほぼ同時期に、履修方法についての情報がK-SMAPYII経由で届きます。その説明をよく読んでから、申請してください。

Q 飛び級を希望しない人は、どんな申請をすればよいのですか？

A とくに申請は必要ありません。K-SMAPYII『学生時間割表』にクラス指定科目が表示されますので、一回目授業から履修してください。

Q 飛び級の申請をすれば、必ず認められますか？

A 申請理由が空欄であったり、妥当な理由でなかったりする場合は認められません。理由が適切であっても、クラス定員を超える希望者がいる場合、抽選になりますので、履修を認められない場合があります。第一希望で認められなくとも、第二希望以下に空きがあれば認められることがあります。1年次学生のための飛び級優先枠を設けているので、令和3年度と4年度はほとんどの申請者が第一希望の科目を履修できました。しかし今後は需要と供給のバランス次第で履修を認められないことがありますので、あらかじめご容赦ください。

Q 週2回のクラス指定科目がある学部学科の場合、2科目とも飛び級することになりますか？

A 希望しない人は、飛び級をする必要がありません。希望する人は2科目とも飛び級をすることもできますし、1科目はクラス指定科目にとどまって1科目のみ飛び級をすることも可能です。1年次学生が1科目のみ飛び級をする場合、クラス指定科目のどちらかを選んで削除してもらいます。2科目飛び級をする場合、クラス指定科目の両方を削除してもらいます。

Q 週1回のクラス指定科目がある中国文学科1年次前期、外国語文化学科1年次前後期、人間開発学部1年次前後期
の場合、1科目のみ飛び級することになりますか？

A 希望しない人は、飛び級をする必要がありません。希望する人は、(1)クラス指定科目を削除して1科目を飛び級する、(2)クラス指定科目を削除して2科目を飛び級する、(3)クラス指定科目を履修しながら、1科目飛び級科目を加える、のいずれかを選べます。

Q 観光まちづくり学部1、2年次および人間開発学部2年次には、飛び級制度はありませんか？

A 観光まちづくり学部1、2年次および人間開発学部2年次の学生は、週1回のクラス指定科目を必ず履修してください。それに加えて、観光まちづくり学部2年次以上の学生と人間開発学部全学年の学生は、全学部学科対象の「英語Ⅲ」以上を履修することもできます。

Q 2年次以上の学生にも「飛び級」制度はありますか？

A 「飛び級」と呼んではいませんが、基準を満たせば英語Ⅲ以上を履修できます。

Q 英語Ⅲ以上の履修基準を満たしていますが、「飛び級」すべきかどうか迷います。どうしたらいいですか。

A 基準を満たす人が英語教育センター教員に相談すれば、事情を聞いた上で、多くの場合、背中を押すようにしていますが、無理をして履修に困難が生じても困ります。不安が強い場合は1年次前期はクラス指定科目で様子を見て、後期から飛び級することも可能です。

Q 飛び級の基準スコアや級を少しでも下回ったら、履修は認められませんか？

A スコアや級は目安であり、少し下回っていてもそれを補って余りあるだけの「意欲がある」ならば、履修可能です。心配な人は、英語教育センターに相談してください。または、飛び級の申請をする際に、「意欲がある」を理由として申請し、具体的な状況を明記してください。

Q 飛び級の基準のなかに「意欲がある」という曖昧な基準があるのはなぜですか？

A 飛び級の基準として設定したスコアや級は、門前払いを目的としたものではありません。英語学修の成否は履修前の英語力だけで決まるのではなく、どれだけ成長しようとする意欲があるのかが重要です。基準のスコアや級を少し下回っている程度であれば、意欲で補えます。また、帰国子女等で明らかに英語力が高いのに、スコアや級を持っていないことだけが理由で飛び級ができない人を救済する目的もあります。いずれにしても、「意欲がある」という理由を選んだ人は、具体的な説明を申請の際に明記してください。

Q クラス指定科目でも習熟度別になっているのに、さらに習熟度別の飛び級制度があるメリットは？

A クラス指定科目は、学部学科別および習熟度別に、時間帯、クラス、教員がすべて大学によって決められます。飛び級で英語Ⅲ以上を履修すると、英語Ⅱまでのクラス指定の枠を超えて、時間帯や科目や教員を選ぶことができるだけでなく、英語力や意欲が比較的高い学生とともに学ぶことができます。科目名の括弧内にテーマが簡潔に示されているので、興味のある授業を内容本位で選べます。これまで身につけた基礎に上乘せする形で応用力をつけ、各自の目的や目標に応じた高いレベルへと飛躍することを目指せます。さらに、自分の意志で授業を選べること自体が学習意欲につながると期待しています。

Q クラス指定科目にメリットはないのですか？

A クラス指定科目は、基礎（簡単という意味ではなく、早期に学ぶべき技能や知識）を優先的に身につけることを目指します。また、同じ学部学科学年の学生と学べるというメリットもあります。

Q 飛び級の申請期限を過ぎてしまいましたが、飛び級を認めてもらえますか？

A 申請および抽選の公平を期すため、申請期限を過ぎた場合は飛び級を認めていません。クラス指定科目を履修してください。

Q クラス指定科目や飛び級科目の単位を落とした場合は、どうすればよいのですか？

A 観光まちづくり学部の場合、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」の4つのクラス指定科目が必修ですので、いずれかを落とした場合、その数だけ「英語（再）」を履修してください。観光まちづくり学部以外は、クラス指定科目であるかどうかにかかわらず、「英語Ⅰ」から「英語Ⅴ」までのどの英語科目でも卒業要件単位に含めることができます。

Q 共通教育英語科目の卒業要件単位を取り終えた場合、もう英語の履修はできませんか？

A 科目名が異なれば、何科目でも英語を履修することが可能です。とくに2年次以降に英語を履修せずに英語力が下降しては困りますので、意欲のある人は英語の履修を続けてください。ただし、「英語科目の卒業要件単位数」を超えた分が、どのようにカウントされるかは学部学科によって異なります。履修要綱を参照してください。

Q 上記以外の質問や相談がある場合は、どうすればよいですか？

A 早めに氏名、学部学科名、（決定済の場合は）学籍番号、質問相談内容をメールで英語教育センターに送信してください。回答方法は、メール、対面、Zoomを選べますが、対面かZoomを希望する場合は、早めに希望日時を複数お知らせください。希望日時の都合が合わない場合は、メールでの回答になることもあります。

CELE@kokugakuin.ac.jp